

男女共同参画に関する 県民意識と生活基礎調査

結 果 概 要

1. 男女平等について
2. 子育てや子どもの教育について
3. 結婚について
4. 家庭生活について
5. 職業生活について
6. 社会活動等について
7. 女性の人権、ドメスティック・バイオレンスなどについて
8. 男女共同参画社会について

調査の概要

- 調査の目的** : 本調査は、男女共同参画社会の実現をめざして、三重県における男女共同参画に関する県民意識と生活意識について把握し、今後の施策を推進するための基礎資料とすることを目的に実施しました。
- 対象者** : 県内に居住する20歳以上の男女5,000人
- 調査期間** : 平成16年1月～2月
- 調査方法** : 郵送配布・郵送回収による郵送調査法
標本の抽出については、市町村ごとに抽出数を定め、選挙人名簿により無作為に抽出
- 回収結果** : 2,112人(42.2%)
- 調査実施機関** : 株式会社日本出版

回答率(%)は、小数第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合があります。また、小計についても同様に異なる場合があります。

平成16年3月
三 重 県

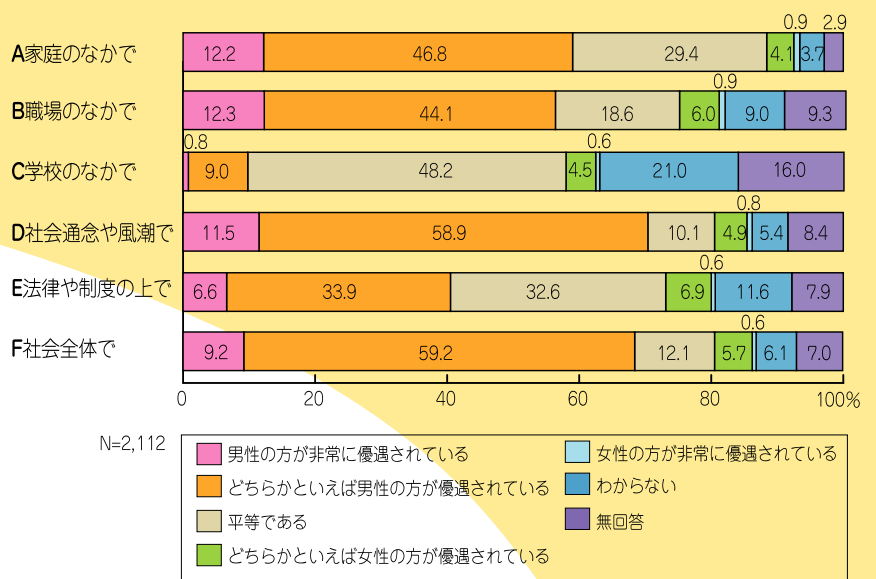
1 男女平等について

男女の地位について

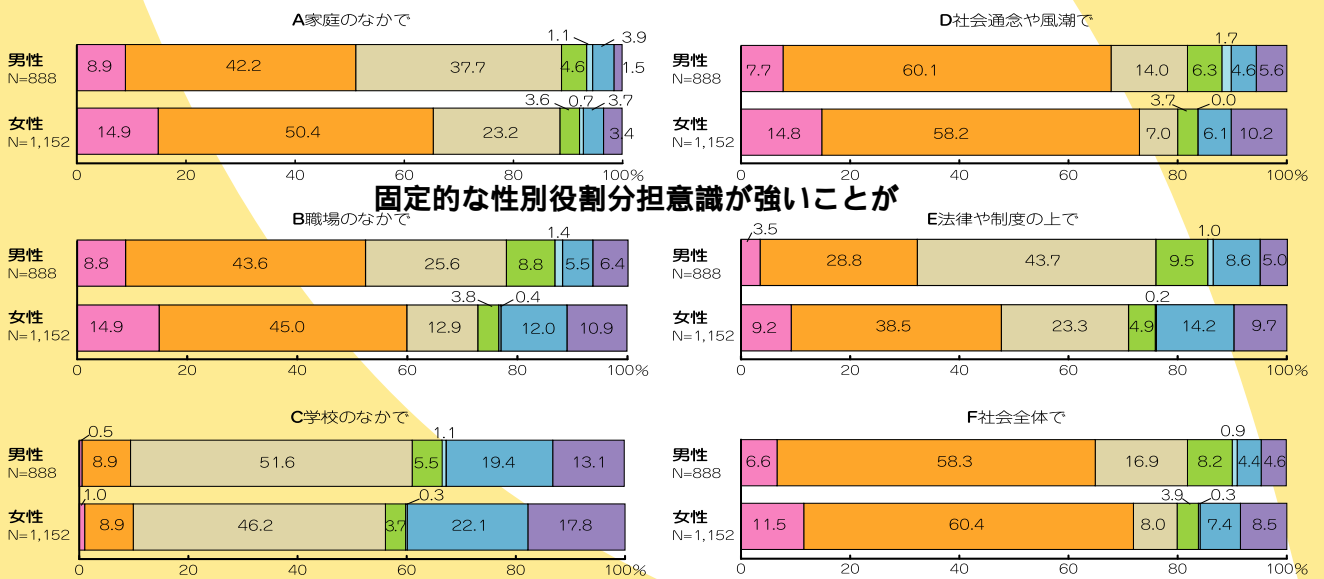
男女の地位について、「学校のなかで」以外の分野では、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合が最も高く、特に「社会通念や風潮で」、「社会全体で」については、7割程度の人が『男性の方が優遇されている』としています。

「家庭のなかで」、「職場のなかで」についても、過半数の人が『男性の方が優遇されている』としており、社会において依然、男女の不平等感が強いことが分かります。

文章中の『男性の方が優遇されている』は、選択肢の「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの。



固定的な性別役割分担意識が強いことが

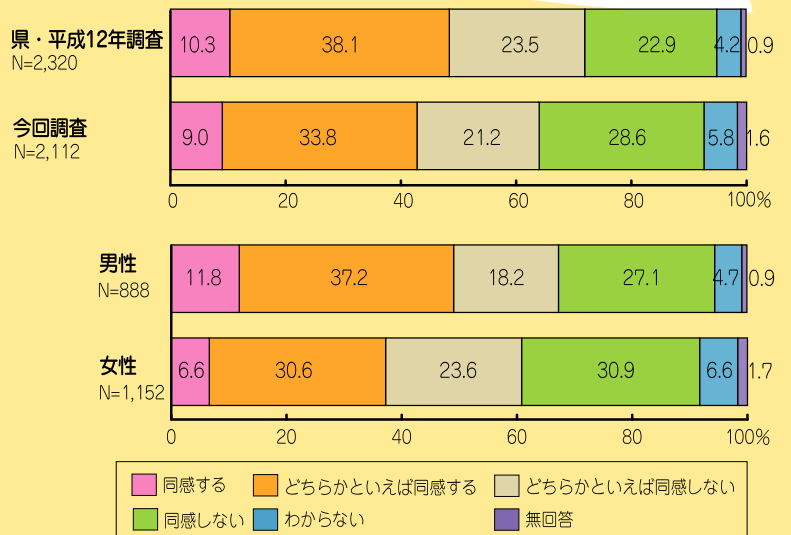


「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、今回調査では『同感しない』が約50%となっており、平成12年調査(約46%)より高くなっています。

また、男性は『同感する』が49%を占めているのに対し、女性では『同感しない』が約55%を占めており、男性の方が分かります。

文章中の『同感する』は、選択肢の「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせたもの。『同感しない』は、選択肢の「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合わせたもの。



2 子育てや子どもの教育について

子育てについて

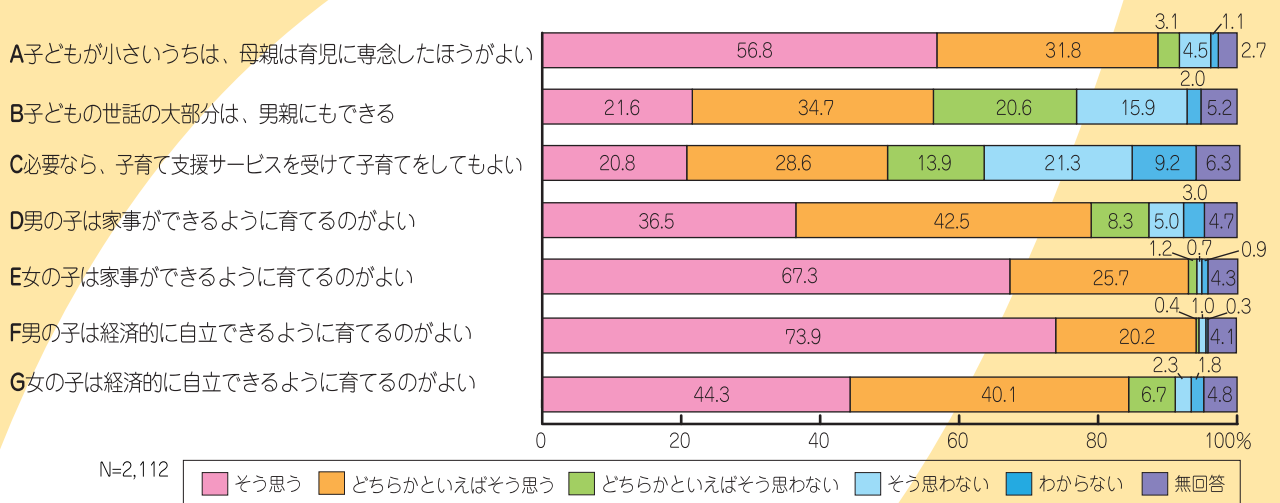
子育てについて、『家事ができるように育てるのがよい』と答えた人の割合は男の子が79%に対し、女の子は93%を占め、また、『経済的に自立できるように育てるのがよい』と答えた人の割合は男の子が約94%を占め、女の子は約84%と子どもの性によって差がみられました。

また、「子どもが小さいうちは、母親は育児に

専念したほうがよい」と答えた人の割合が約57%なのに対し、「子どもの世話の大部分は、男親にもできる」と答えた人の割合は約22%にとどまりました。

このことから、「家事や育児は女性の仕事」という意識がまだ強く残っていることがうかがえます。

文章中の『家事ができるように育てるのがよい』は、DとEに関する選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。『経済的に自立できるように育てるのがよい』は、FとGに関する選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。

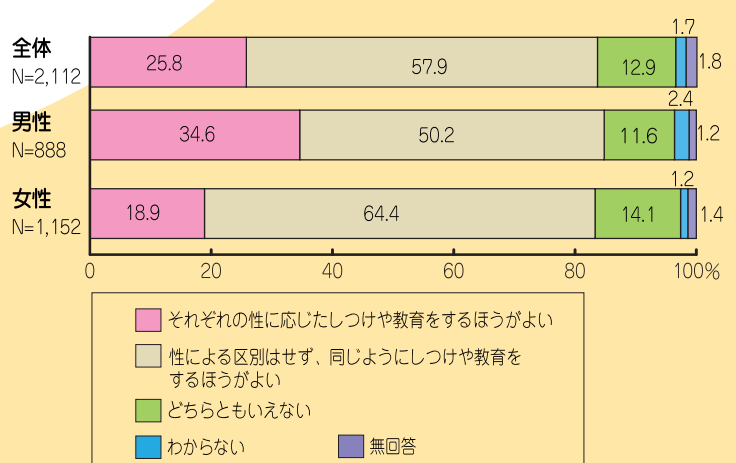


男の子と女の子のしつけや教育について

男の子と女の子のしつけや教育について、全体では、「性による区別はせず、同じようにしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合が約58%と最も高くなっています。

男女別にみても、ともに「性による区別はせず、同じようにしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合が最も高くなっていますが、その割合は、男性の約50%に対し、女性では約64%を占めています。また、「それぞれの性にに応じたしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合は、男性の約35%に対し、女性では約19%にとどまっています。

このことから、女性は男性よりも、性別による区別を望まない傾向が強くなっていることがうかがえます。



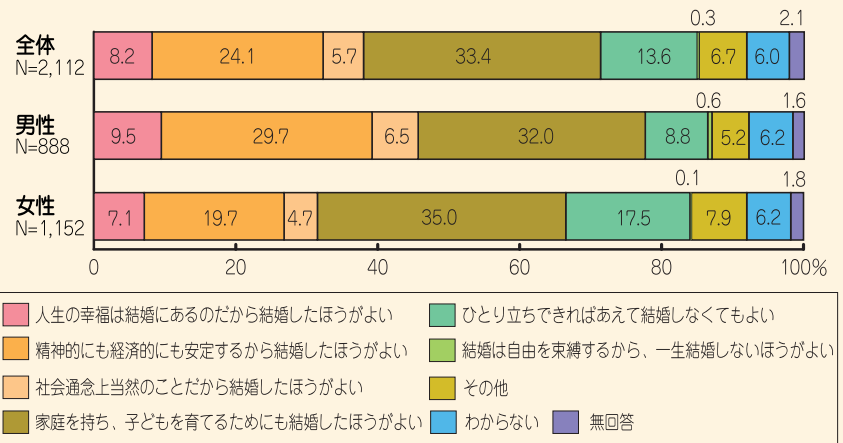
3 結婚について

結婚に対する考え方について

結婚について、全体では、「家庭を持ち、子どもを育てるためにも結婚したほうがよい」と答えた人の割合が約33%と最も高くなっています。

男性では、「人生の幸福は結婚にあるのだから結婚したほうがよい」、「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい」など、結婚への肯定的な意見を答えた人の割合が合わせて約46%と、女性の約32%を上回っています。

また、逆に「ひとり立ちできればあえて結婚しなくてもよい」と答えた人の割合は、男性約9%、女性約18%と女性が男性を上回っています。

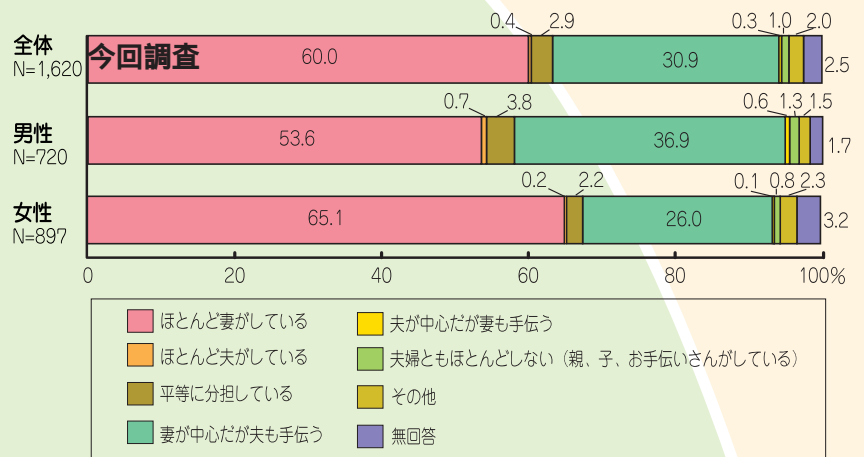


4 家庭生活について

夫婦間での家事分担について

夫婦間の家事分担について、全体では、「ほとんど妻がしている」と答えた人の割合が約60%と最も高く、依然、家事は妻に偏っている現状が分かります。

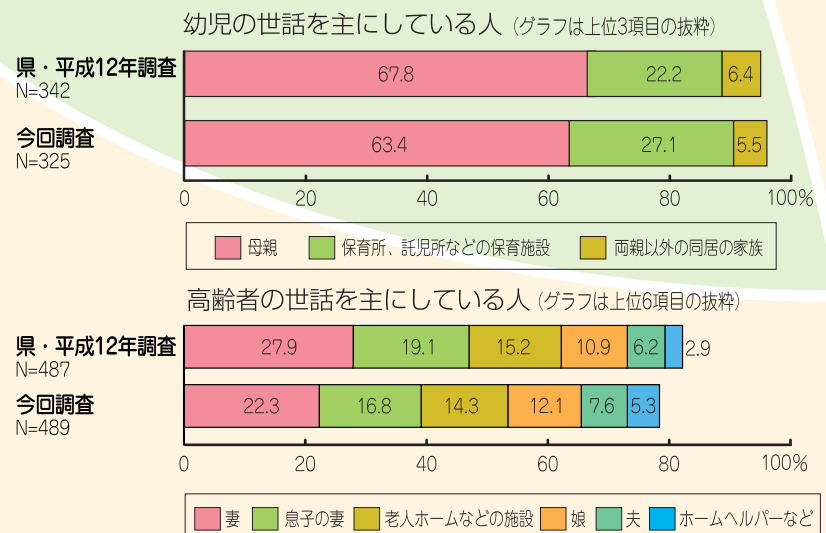
男女別で見ると、「妻が中心だが夫も手伝う」の割合に差がみられ、男女間で「協力」の認識がずれているケースがあることがうかがえます。



平日の日中に幼児や高齢者の世話をしている主な人について

平日の日中、幼児の世話は主に誰がしているかについて、今回調査、平成12年調査ともに「母親」と答えた人の割合が6割以上を占めており、「育児は母親が中心」という傾向は過去と比べて変化はみられません。

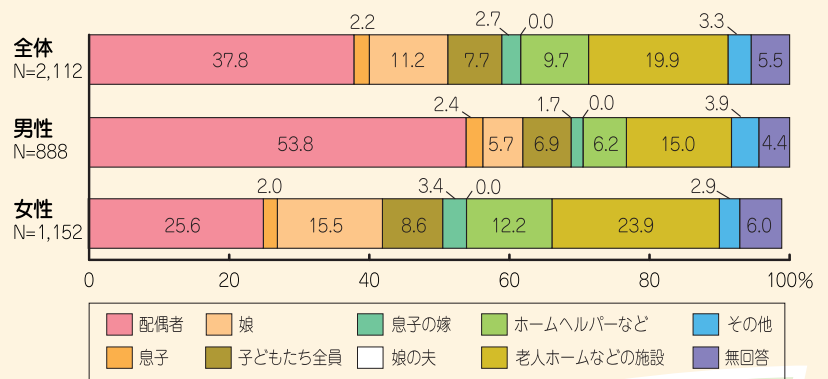
高齢者の世話を主に誰がしているかについて、平成12年調査では「妻」、「息子の妻」が47%でしたが、では約39%と低くなっています。



将来、誰に介護されたいか

将来誰に介護されたいかについて、全体では、「配偶者」と答えた人の割合（約38%）が最も高く、「老人ホームなどの施設」（約20%）と続いています。

男女とも「配偶者」と答えた人の割合が最も高くなっていますが、男性の約54%に対し、女性では約26%と低くなっています。また、女性は「老人ホームなどの施設」、「娘」などの割合が男性よりも高くなっています。



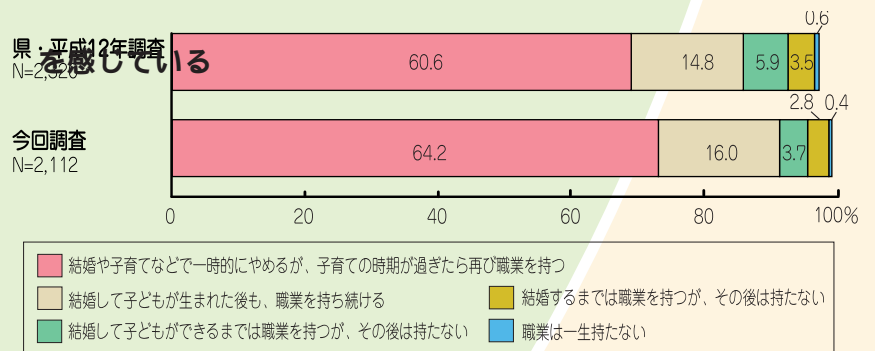
5 職業生活について

女性の職業へのかかわり方について

女性の職業へのかかわりについて、全体では、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」と答えた人の割合が約64%と最も高くなっています。

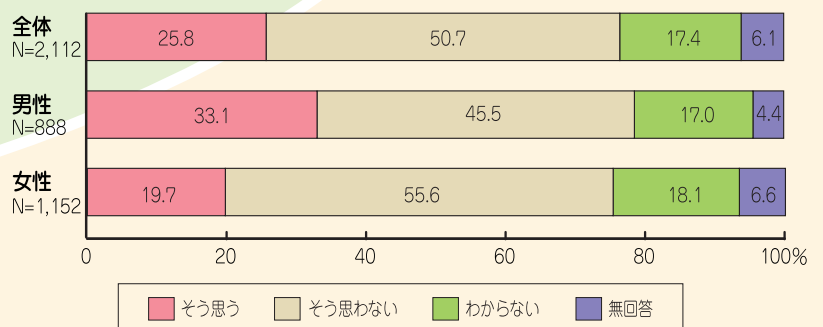
また、平成12年調査と比べると、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」、「結婚して子どもが生まれた後も、職業を持ち続ける」と答えた人の割合は、若干高くなっているといえます。

グラフは「その他」、「わからない」、「無回答」以外の選択肢の抜粋



現在の女性の働きやすさについて

現在の女性は働きやすい状況にあると思うかについて、男女とも「そう思わない」と答えた人の割合が最も高くなっていますが、女性では約56%を占めているのに対し、男性では約46%にとどまっています。「そう思う」と答えた人の割合も、男性の約33%に対し、女性は約20%と低く、女性が「働きにくさ」ことが分かります。



6 社会活動等について

男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動等に積極的に参加していくために必要なこと

男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動等に積極的に参加していくために必要なことについて、男女とも「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」と答えた人の割合が最も高くなりました。

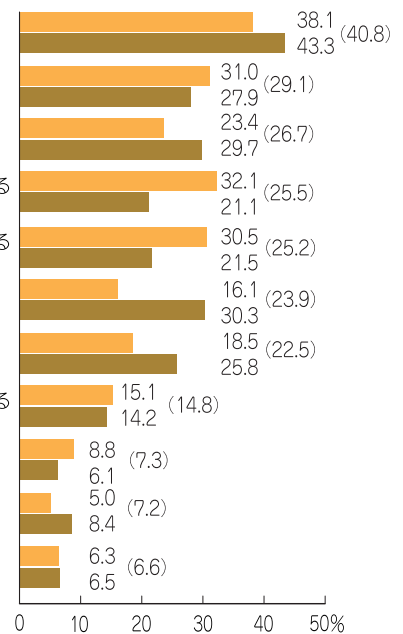
男性は「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」や「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」と答えた人の割合が、ともに女性を10ポイント程度上回っています。

女性は「家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をする」と答えた人の割合が男性を14ポイント程度上回っています。

グラフは「その他」、「わからない」、「無回答」以外の選択肢の抜粋

- 男女の役割分担についての社会通念・慣習、しきたりを改める
- 労働時間短縮や休暇制度を普及させる
- 夫婦の間で家事などの分担を
するように十分に話し合う
- 仕事中心という社会全体の仕組みを改める
- 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める
- 家事などを男女で
分担するようなしつけや育て方をする
- 男性が、家事などに参加することに
対する抵抗感をなくす
- 男性の男女共同参画に対する関心を高める
- 妻が、夫に経済力や出世を求めない
- 夫が家事などをするに妻が協力する
- 仕事と家庭の両立などの
問題について相談できる窓口を設ける

() 全体 N=2,112 男性 N=888 女性 N=1,152



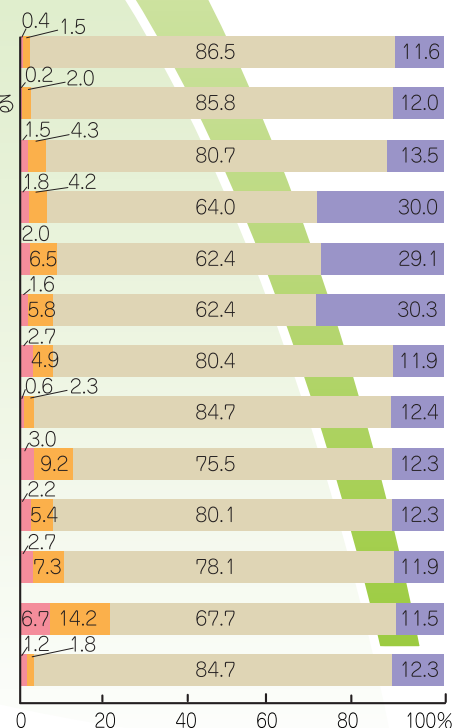
7 女性の人権、ドメスティック・バイオレンス (配偶者・恋人などからの暴力) などについて

ドメスティック・バイオレンスを受けた経験について

配偶者や恋人から受けたことのある暴力等について、「命の危険を感じるくらい」の暴行をうけるは、「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせて1.9%の人が『経験がある』と答えています。

また、「大声でどなられたり、暴言を吐かれる」は、約21%の人が『経験がある』と答えており、他の項目と比較して最も高い割合となっています。

- A 命の危険を感じるくらい暴行をうける
- B 医師の治療が必要となる程度の暴行をうける
- C 医師の治療が必要とならない程度の暴行をうける
 - C-1 足で蹴られる
 - C-2 平手でたたかれる
 - C-3 殴るふりをして、おどされる
- D いやがっているのに性的行為を強要される
- E 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる
- F 何を言っても無視され続ける
- G 交友関係や電話を細かく監視される
- H だれのおかげで生活できるんだ、甲斐性なし、と言われる
- I 大声でどなられたり、暴言を吐かれる
- J 生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられる



N=2,112

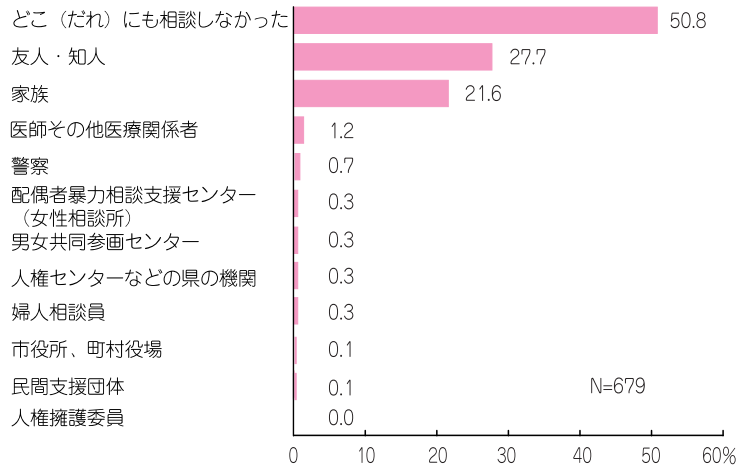
何回もあった 1、2度あった まったくない 無回答

ドメスティック・バイオレンスを誰かに打ち明けたり、相談した経験の有無について

ドメスティック・バイオレンスを受けたことがあると答えた人のうち約51%が「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えています。

また、相談したところ(人)としては、「友人・知人」が約28%、「家族」が約22%となっており、「医師その他医療関係者」、「警察」などの相談機関に相談したという人は合わせて約3%程度にとどまっています。

グラフは「その他」、「無回答」以外の選択肢の抜粋

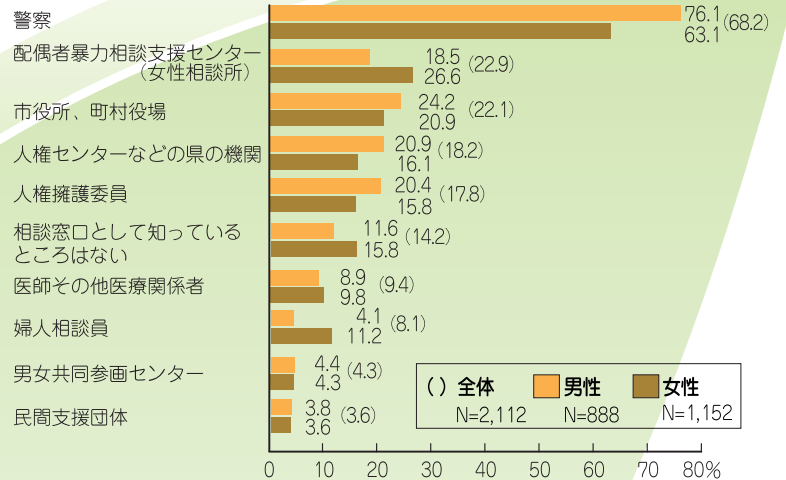


配偶者や恋人の間で、相手から暴力等を受けたときに相談できる機関や関係者の認知度について

配偶者や恋人から暴力等を受けたときに相談できる機関や関係者で知っているものとして、「警察」と答えた人の割合が最も高くなりました。

「相談窓口として知っているところはない」と答えた人の割合は、女性で約16%、男性で約12%となりました。

グラフは「その他」、「無回答」以外の選択肢の抜粋



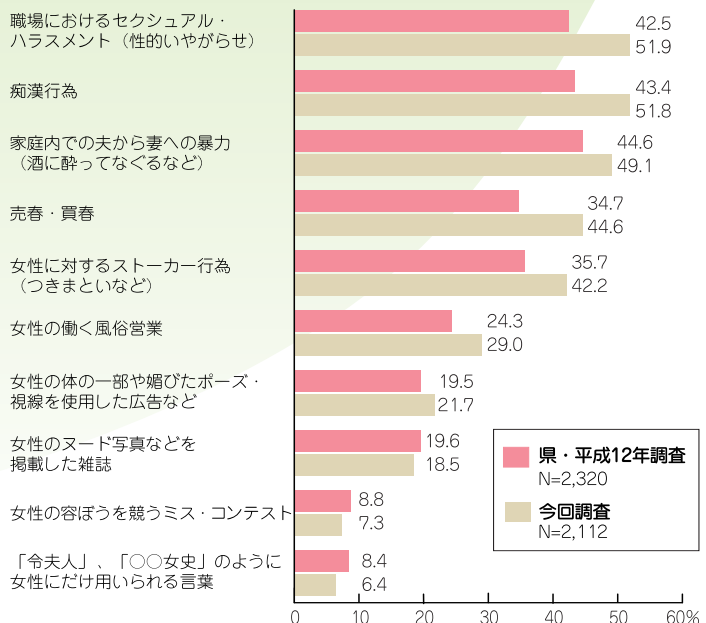
女性の人権が尊重されていないと感じること

女性の人権が尊重されていないと感じることについて、全体では、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」、「痴漢行為」(ともに約52%)と答えた人の割合が高くなっています。

「女性のヌード写真などを掲載した雑誌」、「女性の容ぼうを競うミス・コンテスト」、「令夫人」、「女史」のように女性にだけ用いられる言葉」以外の項目で、今回調査が平成12年調査を上回りました。

特に、「売春・買春」では平成12年調査より10ポイント程度高くなっています。

グラフは「特になし」、「わからない」、「その他」、「無回答」以外の選択肢の抜粋



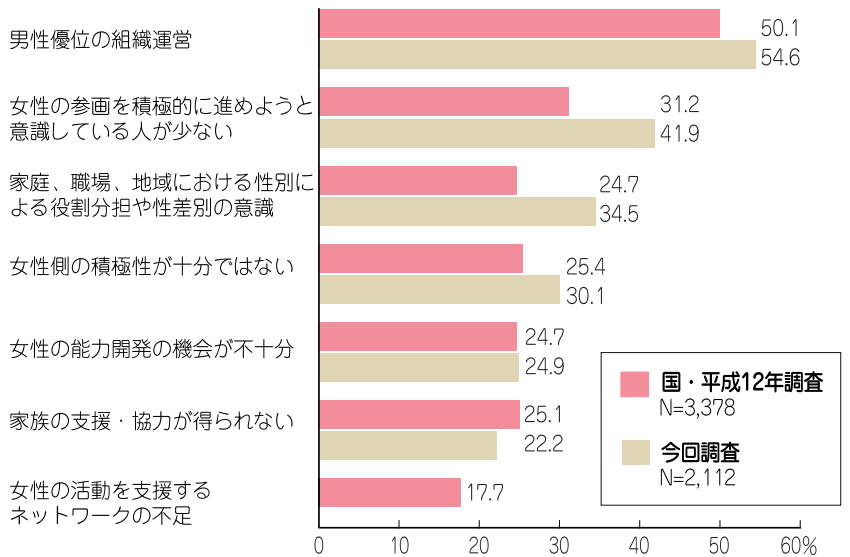
8 男女共同参画社会について

政治や行政において、女性の参画が少ない理由について

政治や行政において、女性の参画が少ない理由について、今回調査では、「男性優位の組織運営」が約55%と半数を占めました。

また、「家族の支援・協力が得られない」以外の項目では、国の平成12年調査を上回っており、特に「女性の参画を積極的に進めようとして意識している人が少ない」では11ポイント程度高くなっています。

グラフは「わからない」「その他」「無回答」以外の選択肢の抜粋
 選択肢中の「女性の活動を支援するネットワークの不足」は、国・平成12年のみ



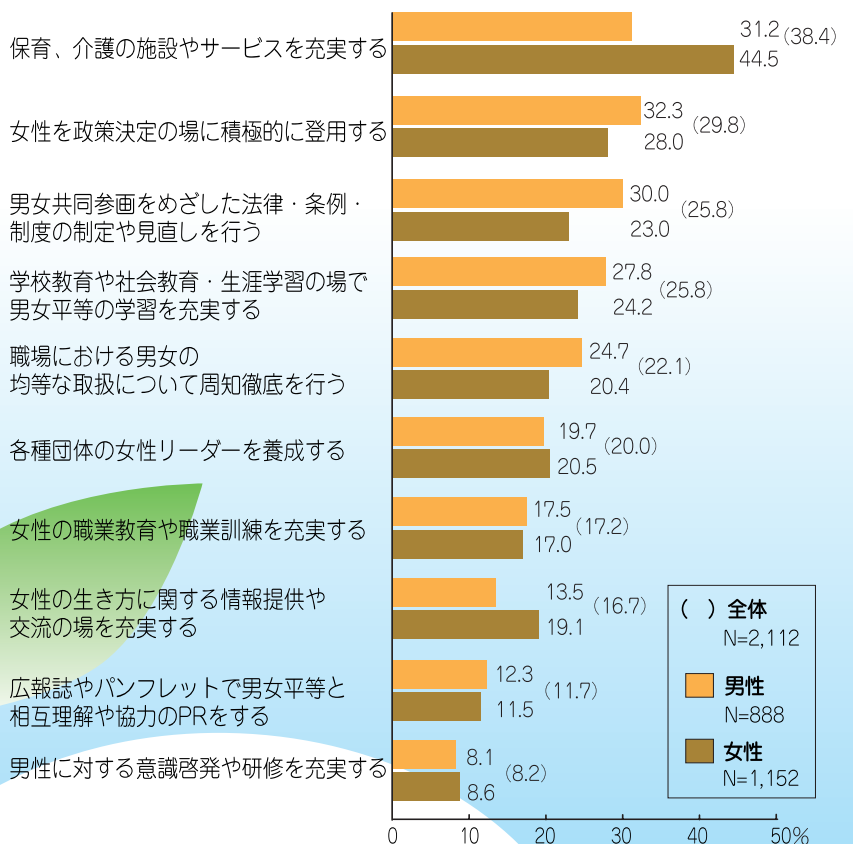
今後、男女共同参画を推進していくために、力を入れていくべきものについて

今後、男女共同参画を推進していくために力を入れていくべきものについて、全体では、「保育、介護の施設やサービスを充実する」と答えた人の割合が約38%と最も高くなっています。

男性では、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」と答えた人の割合が約32%と最も高くなりました。

女性では、「保育、介護の施設やサービスを充実する」と回答した人の割合が約45%と最も高く、男性と比較して13ポイント程度高くなっています。

グラフは「特にない」「わからない」「その他」「無回答」以外の選択肢の抜粋



男女共同参画に関する
 県民意識と生活基礎調査
 結果概要
 平成16年3月
 三重県 生活部 男女共同参画チーム
 〒514-8570 津市広明町13番地
 TEL 059-224-2225